

# 余部橋梁

余部鉄橋は平成22年8月にコンクリート橋に生まれ変わりました。



兵庫県香美町

## ■鉄橋からコンクリート橋へ

明治45年（1912年）に完成した余部鉄橋は、列車運行規制風速が20m/sに定められており、特に冬季間の強風時には列車の遅延、運休がたびたび発生していました。

列車運行の安全性向上と定時性の確保を図るため、平成3年に「余部鉄橋対策協議会」が設立され、専門家による調査検討が行われました。

協議会では、旧橋梁に防風壁を設置することも含め様々な技術的検討がなされた結果、防風壁を備えたコンクリート製の新橋梁に架け替えを行うことになりました。



架け替え前の余部鉄橋

## ■新余部橋梁について

新しい橋梁の形式は、これまでの余部鉄橋のイメージ「直線で構成されたシンプルな美しさ」と「風景に溶け込む透明感」を継承する橋をデザインコンセプトとし、耐風性などに優れることなどから、エクストラドーズドPC橋が採用されています。

定時性を確保するため、透明なアクリル製の防風壁を設置し、風速30m/sでの列車運行が可能となりました。

## ■新しい余部のシンボルに

新しい余部橋梁は、日本一の余部鉄橋の誇りを受け継ぎ平成22年8月12日から運用が開始されました。

余部鉄橋同様、「空中列車」としての眺望も美しく新たな余部のシンボルとなっています。

現地保存されている3本の橋脚は、展望施設「空の駅」として活用されています。<平成25年5月完成>



美しい日本海を望む新余部橋梁

## 記念誌『余部鉄橋』

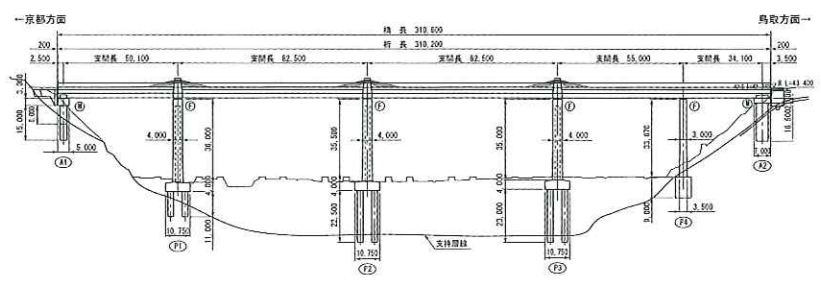
余部鉄橋の建設の歴史など、写真付きで分かりやすく解説した記念誌『余部鉄橋』好評発売中です。



■ご購入は、香住観光協会  
香美町香住区七市1-1  
TEL:0796-36-1234

## 新余部橋梁の概要

- 1 構造形式 エクストラドーズドPC橋
- 2 規模 橋長310.6m 高さ41.5m
- 3 工期 平成19年3月着手  
平成22年8月完成
- 4 事業費 約30億円



# 余部鉄橋



## ■明治45年 余部鉄橋の完成

香美町香住区余部にある鉄橋。JR山陰本線の鎧駅と余部駅との間に位置しています。全長310.6m、高さ41.5mで、建設当時トレスル式鋼橋としては東洋一の規模を誇りました。鉄橋は、余部集落の上空をまたいで東西の山腹に架け渡され、東側（京都方）に東下谷トンネル、西側（鳥取方）に余部駅があります。

明治42年（1909年）12月着工。橋脚はアメリカンブリッジCOペンコイド工場で製作され、はるばる海を渡って輸入された鋼材を使用し、機械力の乏しい前近代的工法の中にあって当時最高の技術を駆使し、明治45年（1912年）1月に完成。同年3月1日に山陰本線が全線開通しました。



橋脚が並んだ建設工事現場（明治44年8月）

橋梁設計は、鉄道院技師の古川晴一が、現場工区主任に岡村信三郎あたり、工事には33万1千円の費用（現在地に同じものを建設する場合の概算工事費は約42億円）と延べ25万人を要しました。

## ■昭和34年 待望の余部駅が完成

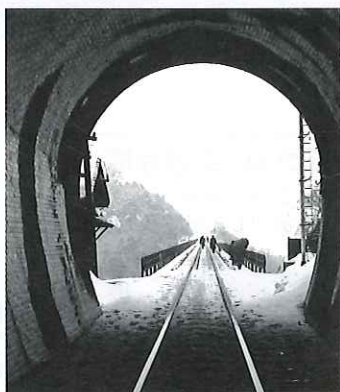
立派な鉄橋が完成しても駅がないために不便な生活が強いられていた昭和30年頃、余部の人々は当時の国鉄に駅の設置を強く働きかけ、さらに余部小学校児童も阪本勝兵庫県知事に手紙を届けるなどした結果、ようやく駅ができることになりました。子供と大人が力を合わせ、海岸から玉石を運び上げて駅までの道やホームをつくりあげ、昭和34年（1959年）ついに「余部駅」が誕生しました。念願の一番列車が到着し、村中総出で歓迎、大喜びしました。



余部駅に到着の一番列車（昭和34年4月）

## ■鉄橋が通勤通学路

山陰本線開通時に余部には駅がなく、通勤する大人や生徒たちは列車通過の合間を縫って余部鉄橋を歩いて渡り、約1.8km離れた隣の鎧駅まで線路を歩いて通っていました。地上40mの高い鉄橋の上も真っ暗なトンネルを通る時も、地元の人たちは枕木の間隔を体が覚えていて難なく歩くことができました。

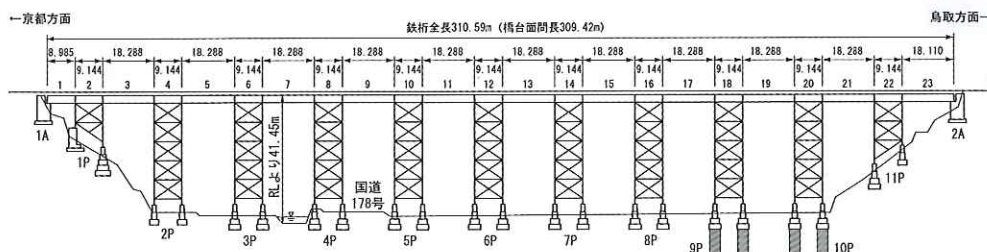


鎧駅まで線路を歩く村人

## ■鉄橋を陰で支えた「橋梁守」

但馬地方特有の不順な天候に加え、日本海から吹きつける潮風で、鋼製の鉄橋は錆びやすく腐食しやすい環境でした。特に太平洋戦争中の資材不足は深刻で、鉄橋の保守は容易ではありませんでしたが、上倉音吉氏、望月保吉氏、山崎彦人氏ら専属の橋梁守の地道な努力によって荒廃を最小限に食い止めることができました。

昭和32年（1957年）から行われた3次にわたる長期修繕計画によって橋梁部材の抜本的取り替えなどが行われ、その結果鉄橋は新しく生まれ変わりました。橋げたや支柱など主要部材は建設当時のままです。



## 余部鉄橋の概要

- 1 橋梁形式 鋼トレスル式高架橋
- 2 規模 橋長310.59m  
高さ 41.45m
- 3 工期 明治42年12月着工  
明治45年1月完成
- 4 総工費 331,536円 (当時)